

保健補導員会活動の歴史



保健補導員会の活動の変遷

発足当初の活動

寄生虫予防、家族計画思想の普及が大きな事業であった。

昭和30～40年代の活動

脳卒中対策を中心とした成人病予防活動に重点が置かれるようになり、血圧測定を主とした健診事業や、減塩運動が全ての町で取り組まれた。

昭和50年代の活動

運動・栄養・休養を中心とした健康づくり事業に重点が移り、歩く健康づくりや禁煙活動の推進を行う。

近年の活動

少子高齢化の時代となり、生活習慣病の予防として各種健診の受診の呼びかけや、子育て中の親子を対象とした「子育て広場」、高齢者を対象とした「ふれあいサロン」の開催、健康体操「須坂エクササイズ」の普及など多岐にわたっている。

平成28年 春の叙勲「緑綬褒章」受章



「緑綬褒章」受章 賞状

長年にわたって継続してきた健康づくりにかかわるボランティア活動の実績が評価される。

保健センターの設立を要望

昭和56年に建設された保健センターは、当時の保健補導員会・OB会が保健センター研究委員会を立ち上げ、「広く安全で使いやすい保健センターを」と市へ要望し、建設につながった。現在でも、市民の健康づくり事業の拠点として、市民にとって必要な施設となっている。



保健センター(完成当時)

区長会との懇談会を開催し、理解・協力を得る

保健補導員が学んだことを地域へ展開するためには、区長をはじめとする区役員が保健補導員会活動を理解し、協力してほしいという思いがあった。

昭和51年、初めて区長会と保健補導員会双方の理事による懇談会がもたれたことを契機に、保健補導員が区の役員として位置づけられた。その後も浸透していくよう、定期的に親睦交流会を開催している区もある。



区長会との懇談会